

## 維新、堺に照準

写真は日経新聞 5 月 5 日。リードから一大阪府知事・大阪市長のダブル選や衆院大阪 12 区補選で勝利した大阪維新の会が堺市長選（5 月 26 日告示、6 月 9 日投開票）に向け、勢いづいている。維新の看板政策「大阪都構想」に反対してきた竹山修身前市長が政治資金問題で辞職。大阪市に隣接する堺市も含めて大都市圏をつくるという構想がにわかに現実味を帯びてきた。



維新関係者の念頭には今も、大阪市を廃止し特別区に再編した次のステップとして、周辺都市を特別区として加える「グレーター大阪」の構想がある。大阪市の人口は約 270 万人で東京 23 区(約 940 万人)を大きく下回る。80 万人超の堺市など周辺自治体が増えれば、東京 23 区に対抗する大都市圏になるとの期待が背景にあり、都構想の「拡大」が視野に入る。

大都市地域特別区設置法で、大阪市を廃止して複数の特別区にするには住民投票が必要だ。一方、堺市が後に続き一つの特別区になる場合は住民投票は不要。府と堺市で設計図を作り、両議会で議決すればいい。維新代表で大阪市長の松井一郎氏は 4 月 22 日、記者団に「まずは都構想を住民に判断いただき、その後、周辺市を含めて東京に負けない大都市圏をつくりたい」と述べた。

堺市が政令市となったのは 06 年。住民の間には「市」の消滅を意味する特別区への移行に抵抗が根強い。

どうも堺のことが気になり、6 日午後に堺市産業振興センターで開催された「つどい」に参加した。呼びかけ人の落語家・笑福亭竹林さんの軽妙な司会で始まった。会場には大勢の人が詰めかけ、立ち見・座り見も。それだけ堺の今に危機感を抱く人が多いのだろう。



立命館大の森裕之さんが、維新政治の「成長戦略」を再検証すると題し、熱弁を振るった。つづいて、堺市議会議員の長谷川俊英さんが「堺市にまつわる『政治とカネ』の不祥事を断ち切り政治倫理を確立するために」と題して問題を投げかけた。維新所属の議員の不正とともに、竹山市長の政治資金疑惑についてリアルに報告した。維新の攻撃が予想されるなかで、なんと杜撰な会計処理、それも身内でやっていたとは？ 問題なのは竹山前市長だけでない。

いずれにしても、先の記事のように維新は堺市に照準を定め、都構想の拡大を狙っている。再び「自治都市・堺」の真価が問われる。ほんま「さかい」??

(2019 年 5 月 9 日)